

法相不信任・予算委員長解任案

野党が共同提出

衆院

日本共産党と、立憲民主党、国民民主党、社民党などの共同会派は27日、検察官の定年延長問題で強引な法解釈と、その答弁を繰り返す森雅子法相の不信任決議案と、異常な委員会運営を続けている棚橋泰文衆院予算委員長の解任決議案を衆院に共同提出しました。

↓関連②③、藤野・宮本氏の賛成討論④面



賛成討論に立つ藤野保史議員。奥は森雅子法相=27日、衆院本会議

自公維が否決

森法相の不信任案について、衆院本会議で賛成討論

に立った共産党の藤野保史議員は、黒川弘務東京高検検事長の定年延長のため、「森法相は日本国憲法に由来する検察官の職務の特殊性を無視し、検察庁法の解釈をねじ曲げ、強引な解釈を行った」と批判。「ウソを重ねる答弁で、国会審議を踏みにじっている」とも述べました。

共同会派の小川淳也議員は、検察人事への介入、従来の法解釈を「口頭決裁」で変更する手法は法の支配や三権分立に反するとして、「憲法違反の疑いがある。本人事にかかる閣議決定の撤回を求める」と厳しく指摘しました。

宮本氏は、「棚橋氏がやるときは、真実が明らかにすべきは、過ちが是正されるまで、徹底した審議を続けることだ」と強調。新型コロナウイルス対策費が1円も計上されていないことを挙

げ、「予算の修正が必要だ。審議打ち切りなど断じて許されない」と力を込めた。共同会派の川内博史議員は、「意味のない質問だ」という安倍首相の暴言を容認した棚橋氏を「一体どちらを向いているのか。立法府の矜持をもって即座に厳重注意すべきだった」と批判。野党の意向を無視して政府に都合の良い参考人だけを招致し、職権による委員会の強行開催を重ねたことも告発し、「公平さのかけらもない運営だ」と強調しました。